

「名東生き物イキイキフェスタ」取材しました！

「チーム名東」は、2008年8月8日（金）に名東区役所で行われた「名東生き物イキイキフェスタ」取材しました。取材者は椙山女学園大学教育学部1年の辻由佳・守永光希と2年生の木下綾子です。それでフェスタの様子をご紹介します！



このフェスタは、2010年に名古屋市で開催される「生物多様性条約第10回締約国会議」に向けて、名東区民の意識を高めようと企画されたもので、会場には名東区にある牧野が池に生息する魚や虫が展示されていたり、で環境についての理解が深められるようなクイズやゲームができるブースが複数設けられたり、竹から竹とんぼやマイはしを作る手作りコーナーがあったりと、子ども達や区民のみなさんが楽しみながらも、さまざまな生き物がこれからも仲良く暮らしていけるような環境を作っていくためにはどうしたらよいかを考えることができる工夫が凝らされていました。

10時の開場とともに、「生き物を大切に！」の絵画コンクールで入賞した小学生への表彰式、名東区内の保育園児による環境を大切にしようの歌と踊りが披露され、会場には200人以上の子どもと区民のみなさんがつめかけ、会場は活気にあふれていました。

来場した小学校6年生の女の子は、「たけとんぼを自分で作れるコーナー」が楽しかったといい、「楽しみながら生き物のことを考えることができたのでよかったです。自転車をこいで電気をつくるとか、体験できるエコなものがあったらもっとよかったかな」というお話を聞かせてくれました。お孫さんを連れて来場されていた60代の女性は、「孫と一緒に参加しました。勉強になるし、心が豊かになるのでこういうイベントにはなるべく参加するようにしています。メインは生き物なので、ただ展示するだけでなく説明する人が展示の側に常にいるようにすれば、子ども達はさらに惹きつけられるのではないのでしょうか。」というお話を聞かせていただきました。



また、ネイチャーゲームのブースでボランティアとして活動していた40代の女性は、「私たちは、ネイチャーウォッチングという、自然の中を植物や昆虫を見ながら歩く活動を行っています。とてもよいコミュニケーションですよ。参加者は60代以上の方も多いのですが、彼らの好奇心はすごい！！探究心や発見を楽しむ心は、今の子供たちには少なくなってきたんじゃないかな。お金を使わずにとってもよい経験ができます。ぜひ若い子たちにも参加していただきたいです。これがそのきっかけになれば」とお話ししてくださいました。

「生物多様性」という言葉は分かりにくい、難しいという意見がよく聞かれますが、子どもから大人までが「さまざまな生き物がこれからも仲良く暮らしていけるような環境を作っていくためには私たちはどうしたらよいか」を考えることができるよい機会になったと思います。